

2008年10月2日

KOCV 前田裕司

## 寄水源林(JOCA)オータムキャンプ報告書

### わくわくドキドキ「森の身体検査」

#### 【第1回目】

時間 10:00~12:30

参加者 13名(内 子ども4名)

- 内容
- 1 林業用ヘルメット(ハスクバーナ社製)の説明
  - 2 シカの食害とマツカゼソウ
  - 3 寄水源林の歴史
  - 4 においのする植物(クロモジ、サンショウ、コクサギ)の紹介
  - 5 保安林の説明
  - 6 巨木林の説明
  - 7 標準地調査の説明
  - 8 標準地枠(20m×10m)の設定
  - 9 標準地内の成立木にナンバリング
  - 10 胸高直径と樹高の測定(直径は輪尺、樹高はバーテックスで計測)
  - 11 記録の読み合わせと平均値の算出
  - 12 ha当たりの成立本数と材積の計算
  - 13 木材価格の話
  - 14 木の健康度(食害や樹皮のコケ)の説明

#### 【第2回目】

時間 13:30~15:45

参加者 12名(内 子ども3名)

- 内容
- 1 林業用ヘルメット(ハスクバーナ社製)の説明
  - 2 シカの食害とマツカゼソウ
  - 3 寄水源林の歴史
  - 4 においのする植物(クロモジ、サンショウ)の紹介
  - 5 巨木林の説明
  - 6 標準地調査の説明
  - 7 標準地枠(20m×10m)の設定
  - 8 標準地内の成立木にナンバリング
  - 9 胸高直径と樹高の測定(直径は輪尺、樹高はバーテックスで計測)
  - 10 記録の読み合わせと平均値の算出
  - 11 ha当たりの成立本数と材積の計算
  - 12 木材価格の話
  - 13 植栽本数と間伐の話
  - 14 木の健康度(食害や樹皮のコケ)の説明

## 反省・課題

- 1 集合地点（休憩舎）から現場までの道のりが遠く（徒歩20分）、現場での作業時間が想像以上に削られてしまった。そのため、樹高などのデータを取るだけで時間になってしまい、肝心の計算が十分にできなかった。今後、川から林地へ入っていける経路を作ればこの問題は解消できる。
- 2 標準地の枠づくりで子どもに巻尺を引っ張ってもらったが、子どもが参加できる場面が少なかった。参加者の興味、年齢層に合わせた進行ができるように工夫が必要だ。
- 3 標準地を2箇所設置したが、成立本数や木の大きさに若干の差が認められた。あと何箇所か設置してより正確なデータを取り、10年間に渡って調査・観察していきたい。

検査結果…別紙

## びっくりドッキリ「森の水質調査」

時間 15:45~16:20

参加者 13名（内 子ども4名）

- 内容
- 1 気温、水温、pHなどの測り方とパックテストの使用法を説明した。
  - 2 気温、水温、パックテストは参加者に計測してもらった。
  - 3 測定結果の持つ意味を説明した。
  - 4 普段の水質調査（丹沢森林環境研究所）の結果との比較
  - 5 大腸菌の検査は参加者の一人に持ち帰ってもらい、後日結果を報告してもらうことにした。

## 反省・課題

- 1 終了時間が迫り、予定していた水量調査まで進めなかった。また、2班のうち、1班は時間の都合で実施できなかった。しかし、参加者は自分自身で検査結果を出し、その結果に興味深げだった。
- 2 大人向けに説明してしまったため、子どもは別の遊びに行ってしまった。パックテストは色の変化もあり、また、水温や気温の計測は簡単に出来るので、子どもへ参加を促したい。
- 3 参加者の自宅の水道と寄水源林の水がつながっていることを認識してもらうことが大切だと思った。このような意味でも森林の整備は重要である。
- 4 pHメータと電気伝導度計は水質だけではなく、土壌にも応用できるので森林内の土壌も継続的に調査してみたい。

調査結果…別紙